

第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会会長候補
所信

宇都宮 一典
東京慈恵会医科大学
糖尿病・代謝・内分泌内科

糖尿病研究は、科学の進歩を見据えながら精力的に進められており、遺伝子からエピゲノムへと展開するに及んで、別個のものと考えられてきた遺伝的要因と環境因子を融合しようとしています。一方、治療面では、再生医療への期待はもとより、薬効を異にする様々な薬剤が開発され、多くの選択肢を持つに至りました。今後、日本人の病態に即した治療法の確立のために、エビデンスの集積が求められています。しかし、糖尿病の増加は、高齢化や経済的格差などの社会的問題にも深く根ざしていることを忘れてはなりません。現在の糖尿病の診療と研究はあらゆる意味で、新たな転機を迎えているのです。私はオスラーの言葉になぞらえ、『糖尿病におけるサイエンスとアートの探究』をテーマとし、最先端の科学的知見から将来を展望するとともに、糖尿病診療の在り方をあらゆる観点から検証し、今後進むべき姿を明らかにしたいと考えます。

ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。